

2020年度

事業報告書

2020年1月1日から

2020年12月31日まで

公益財団法人 世界こども財団

本法人の事業内容は、公益財団法人世界こども財団 定款第3条に基づき、下記の通り定義する。

第3条（目的）

この法人は、日本国内及び世界の国々の中で、さまざまな困難を抱えながらも、その将来を必死に切り拓こうと努めている子どもたちや青少年を支援し、かつあるべき共生社会の人材として自立できるよう、その健全な育成に寄与することを目的とする。

第4条（事業）

- 1 この法人は、前条の目的を達するため、次の事業を行う。
 - （1）被災地の子どもたちや青少年への支援事業
 - （2）子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業
 - （3）子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業
 - （4）子どもたちや青少年の自立支援事業
 - （5）前号に掲げるもののほか、この財団の目的を達成するために必要な事業
- 2 前項の事業については、国内及び海外において行うものとする。

I 被災地の子どもたちや青少年への支援事業

1 方針

震災から9年目を迎え変わりつつある被災地のニーズを汲み取りながら、福島県相馬市・南相馬市の子どもたちや青少年の心身の健康を維持するためのカウンセリングやスポーツ交流を他の支援者とともに協働して実施する。

また、東日本大震災以外にも、自然災害で被災した地域への緊急支援も可能な限り実施していく。

2 支援事業の概要

(1) カウンセリング

- ・復興に向け被災地は大きく変貌しようとしている。その環境変化の中で心理的に不安定になる小中高校の児童、生徒、教員及び保護者等が見られることから、彼らを対象としたカウンセリングを実施して欲しい旨要請を受けた。本要請は、世界こども財団の活動趣旨に一致することから他の支援者（相馬市・南相馬市教育委員会、NPO 法人相馬フォロアーチーム、NPO 法人星槎教育研究所及び学校法人国際学園）とともに協働し、2011年度より福島県相馬市・南相馬市・新地町において継続的に支援を実施してきた。
- ・今年度においても南相馬市から継続の要請を受けているため、支援を継続する。
- ・世界こども財団は、本カウンセリングに関する、支援対象者について教育委員会との調整、カウンセリングの実施に関する企画・コーディネート及び支援機関等への活動支援（移動・宿泊等の支援）及び一部経費負担等の支援活動を行った。
- ・カウンセリングの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
カウンセリング	福島県南相馬市	市内全ての小中学校の児童・生徒・教員・保護者	毎月3日間、南相馬市の小学校、中学校で実施。
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・【支援者（機関）】 南相馬市教育委員会、NPO 法人星槎教育研究所、学校法人国際学園 ・【実績】 ・2011年度より継続実施 		

(2) スポーツ交流

- ・被災地である福島県相馬市より、子どもたちを元気にするため、前年度に引き続き子どもサッカースクール及びサッカー指導講習会の開催についての要請がきている。
本開催要請は、世界こども財団の活動の趣旨に一致することから他の支援者（神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア、学校法人国際学園）とともに協働して実施した。当初予定は2020年1月、8月の2回開催の予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大により、本年は1月のみの開催となった。
- ・世界こども財団は、本スポーツ交流等に関する参加者についての教育委員会との調整、開催実施に関する企画・コーディネート、支援機関等の活動支援（移動・宿泊等支援）及び一部経費負担等の支援活動を行った。
- ・2020年1月18日、19日の2日間にわたり相馬市の光陽サッカー場にて、星槎奥寺カップ2020とサッカースクールを開催し、両日とも100名を超える小学生が参加した。

・ スポーツ交流の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程等
・子どもサッカー大会開催 ・サッカースクール開催	福島県相馬市	■小中学校の児童・生徒 ■青年等	2020年1月18日、19日
備考	・【協働者（機関）】 神奈川県サッカー協会、相馬市教育委員会、NPO 法人ドリームサッカー相馬、学生ボランティア（東京大学）、学校法人国際学園 ・【実績】 2011年度より継続実施		

II 子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境の向上のための支援事業

1 方針

発展途上国の子どもたちや青少年の教育・保健衛生・医療環境を改善するべく、現地の各関係機関と連携し活動を実施する。また、スポーツを通じた支援も行い現地の子どもたちや青少年の育成に加え、支援国のスポーツ文化の振興・発展に寄与する。

2 支援事業の概要

(1) エリトリア国：Unicef エリトリアとの協働による現地学校およびコミュニティ支援

- ・ 2018年1月のエリトリア国訪問時に、Unicef からの依頼を受け協議を実施した。
Unicef エリトリアが計画している現地小学校を拠点とした幼児期教育、水と衛生、スクールクラブ活動の統合プロジェクトにおいて、スポーツの要素も含め世界こども財団との協働の要請を受けた。
- ・ 2019年5月に現地を訪問した際、このプログラムの具体的な工程計画について確認を行い、10月には第一次予算を送金し、Unicef 選定のモデル校にてプログラムが開始した。
- ・ 2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、現地の Unicef 事務所が活動を停止、本プログラムも進行できない状況にあった。今後は現地と連携をとりながら、プログラムの再開、継続と発展に向けて協議を進めていく。
- ・ 国連開発計画（UNDP）アフリカ局とも連携を深めており、Unicef との協働実績をもとに、アフリカにおけるプログラム実施を具体化するべく協議を行う。
- ・ Unicef エリトリアとの協働による現地学校およびコミュニティ支援

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
現地学校およびコミュニティ支援	エリトリア国	Unicef 選定のモデル校および周辺コミュニティ	2019年10月より継続実施
備考	・【協働者（機関）】 Unicef エリトリア		

(2) エリトリア国：スポーツアカデミーの運営支援

- ・ 2017年11月、エリトリア陸上連盟の副会長来日時に、これから開設するエリトリアスポーツアカデミーへの運営支援、および関連施設の補修への支援依頼があった。このアカデミーを開設することにより、エリトリアの子どもたち、青少年に安全な環境で安心な教育を展開することを目的とする。関連施設の補修は、エリトリア唯一の陸上競技場トラックの破損がひどくその修繕については2018年度に実施済みである。
- ・ 2020年度は、先方のプランが未確定および新型コロナウイルスの影響で現地渡航が困難となったため具体的な支援には至らず、引き続き同国文化・スポーツ庁と協議を重ね、2021年度も継続事業とする。
- ・ スポーツアカデミーの運営支援

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
スポーツアカデミー運営支援	エリトリア（文化・スポーツ庁）	首都アスマラを中心とする青少年	本年度は未実施
備考	・【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同陸上競技連盟、学校法人国際学園		

(3) ブータン王国：スポーツスクールの運営支援

- ・ 2019年10月、ブータンオリンピック委員会、並びに教育省との共同プロジェクトチームより2020年開校予定のスポーツスクールへの運営支援、及び、星槎並びに国内公私立高校視察・調査に於ける調査協力と支援依頼があった。ブータン王国では、特定の競技を早期から取り組み日常的に練習を可能とするスポーツスクールを開設することにより、国際競技力向上及びその安定的な維持の施策の一環として位置づけている。
- ・ また、将来オリンピックをはじめとする国際競技大会で活躍できる選手を恒常的に育成するために、ジュニア期におけるアスリートの発育・発達に合わせ、トップアスリートとして必要な「競技力」「知的能力」「生活力」の向上を目的として実施する。スポーツスクールを開校することにより、ブータンの子どもたち、青少年に安全な環境で安心な教育を展開、エリート選手の育成、並びにコーチの育成も行う。
- ・ 2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により、スポーツスクールの開校予定も延期を余儀なくされた。今後については引き続き協議の上支援を行なっていく。
- ・ スポーツスクールの運営支援

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
スポーツスクール運営	ブータン王国公立4校選定	アーチェリー、空手、テコンドー、陸上	本年度は未実施
備考	・【協働者（機関）】 ブータン王国教育省、ブータンオリンピック委員会、学校法人国際学園		

(4) エリトリア国・ブータン王国・ミャンマー連邦共和国におけるスポーツ大会開催支援

- ・ 当該国におけるスポーツ文化の振興・発展に努めるべくスポーツ大会の開催を支援する。
- ・ 支援を実施する大会については、各国オリンピック・パラリンピック委員会、各競技連盟及び各関係機関からの要請又は協議により決定する。
- ・ 2020年度は、前年度まで支援してきた各国での大会の多くが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止・延期となった。
- ・ コロナ渦の中でも実現可能なスポーツ大会の形として、ブータンアーチェリー連盟（BAF）と協同し二国間をオンラインで繋いだリモートアーチェリー交流大会を、8月と11月の2回開催し、ブータンからは代表チーム選手が、日本からはJOCエリートアカデミー生、日本代表チーム、星椋国際高等学校に在籍するブータン人留学生も参加した。
- ・ スポーツ大会開催支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
スポーツ大会開催支援	ブータン王国	ブータン・日本間のリモートアーチェリー大会参加者	第1回：8月1～2日 第2回：11月21～22日
備考	<p>・【協働者（機関）】 学校法人国際学園</p> <p>【2019年度のスポーツ大会開催支援実績】 ツアー・オブ・ドラゴン（ブータン）ブータン国際マラソン（ブータン） アスマラマラソン（エリトリア）</p>		

(5) エリトリア国・ブータン王国・ミャンマー連邦共和国におけるアスリートの大会参加支援

- ・ 当該国アスリートの国際大会参加の際の支援を実施する。
- ・ 支援を行うアスリートは、各国オリンピック・パラリンピック委員会、各競技連盟及び各関係機関からの要請又は協議により決定する。
- ・ 2020年度は国際大会の多くが、新型コロナウイルスの感染拡大により中止・延期となった。
- ・ ただしその中でも、2月には星椋大学に所属するエリトリア人留学生の東アフリカハーフマラソン選手権出場、3月にはエリトリアの車いすマラソン選手のロサンゼルスマラソン出場の支援を実施した。
- ・ 上述の車いすマラソン選手に対しては、大会参加に合わせ競技用車いすの寄贈を行った。
- ・ 直接の大会参加ではないものの、ブータンの射撃連盟に競技用具購入支援を実施した。また、「24時間テレビ」のチャリティ企画の協力を受け、ブータンのパラバスケットボール競技用の車いす5台の寄贈をいただいた。この車いすについては現地への渡航が可能になり次第、ブータンパラリンピック委員会に届ける予定。

・ アスリート大会参加支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
アスリートの大会参加支援	エリトリア国	・ エリトリア 人留学生	東アフリカハーフマラソン選手権出場支援（2/7）
		・ 男子車いすマラソン選手	ロサンゼルスマラソン（3/8）出場支援、競技用車いす寄贈
	ブータン王国	・ ブータン射撃連盟	ライフル射撃用具寄贈（5月）
		・ ブータンパラリンピック委員会	バスケットボール競技用車いす5台を準備（8月）
備考	<p>・【協働者（機関）】 学校法人国際学園、日本テレビ放送網株式会社、エリトリア文化スポーツ庁、エリトリア 陸上競技連盟、ブータンオリンピック委員会、ブータン射撃連盟、ブータンパラリンピック委員会</p> <p>【2019年度実績】 世界柔道東京大会（ブータンより選手3名）、アフリカ競技大会（エリトリアより1名）、ISPS ハンダカップ（ブータンより選手5名コーチ1名、ミャンマーより選手3名コーチ1名）</p>		

Ⅲ 子どもたちや青少年の国際相互理解の促進と健全な育成のための支援事業

1 方針

スポーツ交流を通じ、エリトリア国、ブータン王国、ミャンマー連邦共和国との国際相互理解を図るため、同国より陸上競技をはじめ各スポーツにおいて才能のある高校生・大学生の留学受け入れを他の支援者とともに協働して実施する。

上記3カ国については、2020年東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ協定を締結しており、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町と協働で受け入れを実施していく。

尚、ブータン王国に於いては、2022年北京で開催される冬季オリンピック・パラリンピックの初参加並びに初出場を目指すため、選手発掘から選手育成を行う協働プロジェクトを立ち上げ実施する。

また、スポーツだけでなく異文化理解・友好関係の構築を目的とするイベントの開催や、それらを目的とする学生の短期受け入れも実施する。

2 支援事業の概要

(1) エリトリア留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- ・ エリトリア国より、陸上競技およびバスケットボールに才能があり、かつ学習意欲の高い高校生を日本へ留学させ、最新のスポーツ科学を取入れたトレーニングを提供することにより、その才能を伸ばすとともに、日本の後期中等教育を受けさせることにより、日本・エリトリア両国の友好に貢献できる人材を養成する。陸上においては、オリンピック出場を目指す選手として育成をする。一方、留学生がクラスに入ることにより、日本人生徒は外国、特にアフリカをより身近に実感でき、国際的視野が広がることが期待できる。
- ・ 2020年度は、新規受け入れは高校生を対象とし、2019年度中に現地で面談等を実施、陸上

競技高校生男女 4 名、バスケットボール競技男子 2 名の計 6 名の新規受け入れを決定したが、新型コロナウイルス の感染拡大により今年度中の渡航が叶わなかった。

- ・ 待機中の留学生については、通信教育の形でレポート等に取り組んでもらい、状況を見ながら 1 日も早く来日してもらえよう準備を行なっている。
- ・ 次年度候補者選定に関しては、後期に実施予定。
- ・ 留学受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
留学	エリトリア国（文化スポーツ庁・陸上競技連盟、バスケットボール連盟）	（継続）高校生・大学生 5 名 （新規）高校生 6 名	2017 年より継続 新規留学生は受け入れ へ向け準備を実施
備考	<p>・【受入れ校】 学校法人国際学園 星槎国際湘南、星槎大学、学校法人北海道星槎学園 星槎道都大学</p> <p>・【協働者（機関）】 エリトリア国文化スポーツ庁、同オリンピック委員会および各競技連盟、学校法人国際学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本オリンピック委員会</p> <p>・【実績】 高校生：2017 年度から継続実施、これまでにエリトリアより 5 名を受け入れており、2019 年度卒業した 1 名が星槎大学へと進学。 現在高校生 3 名が星槎国際高校湘南に在籍。 大学生：2017 年度に受け入れ開始、現在星槎道都大学に 1 名、星槎大学に 1 名が在籍。</p>		

（2）ブータン留学生（高校生・大学生）の受け入れ

- ・ ブータン王国より、陸上・アーチェリー・射撃・柔道に才能があり、かつ学習意欲の高い高校生・大学生を日本へ留学生として受け入れる。優れたトレーニング環境を提供することにより、その才能を伸ばすとともに、日本の後期中等教育、または高等教育を受けさせることにより、日本・ブータン両国の友好に貢献できる人材を育成する。いずれの競技においても、オリンピック出場を目指す選手として育成をする。将来的には、日本で取得した学歴をもとに世界に羽ばたく人材を育成する。選定については、現地オリンピック委員会との協議の上行う。
- ・ 在籍中の星槎大学 1 名（陸上）、星槎道都大学 2 名（柔道）、星槎国際湘南 2 名（陸上）の受け入れを継続した。

・ 留学受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
留学	ブータン王国	(継続) 高校生・大学生 5名	2018年より継続
備考	<p>・【受入れ校】 学校法人国際学園 星槎国際湘南、星槎大学、学校法人北海道星槎学園 星槎道都大学</p> <p>・【協働者（機関）】 ブータンオリンピック委員会および各競技連盟、学校法人国際学園、学校法人北海道星槎学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益社団法人全日本アーチェリー連盟、公益財団法人全日本柔道連盟</p> <p>・【実績】 2018年度、陸上1名、アーチェリー2名の高校生受け入れを実施 2019年度、星槎国際湘南を卒業した1名が星槎大学へ進学。 同年新規留学生として柔道2名の星槎道都大学での受け入れを開始。</p>		

(3) ミャンマー留学生（高校生）の受け入れ

- ・ 2018年4月にミャンマーオリンピック委員会と2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ協定を締結したことによって、エリトリア、ブータン同様に支援事業を実施、2019年より空手競技で高校留学生の受け入れを開始した。
- ・ 新規受け入れも空手競技高校生を対象とし、2020年2月に現地で面談等を実施した。男女2名の新規受け入れを決定したが、新型コロナウイルスの感染拡大により今年度中の渡航が叶わなかった。
- ・ 待機中の留学生については、通信教育の形でレポート等に取り組んでもらい、状況を見ながら1日も早く来日してもらえよう準備を行なっている。
- ・ 次年度候補者選定に関しては、後期に実施予定。
- ・ 留学受け入れの概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
留学	ミャンマー（保健スポーツ省・オリンピック委員会、各競技連盟等）	(継続) 高校生 3名 (新規) 高校生 2名	2019年より継続 新規留学生は受け入れへ向け準備を実施
備考	<p>・【受入れ校】 学校法人国際学園 星槎国際湘南</p> <p>・【協働者（機関）】 ミャンマー保健スポーツ省、同オリンピック委員会および空手競技連盟、学校法人国際学園、公益財団法人日本オリンピック委員会、公益財団法人全日本空手道連盟</p> <p>・【実績】 2019年度に空手競技高校生3名の受け入れを開始</p>		

(4) エリトリア国、ブータン王国、ミャンマー連邦共和国の2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の事前キャンプ受け入れ

- ・ 2016年にエリトリア国、2017年にブータン王国、そして、2018年にミャンマー連邦共和国と上記大会の事前キャンプ協定を締結したので、当該国と調整の上、事前キャンプを開催年に向け実施していく。
- ・ 2020年に実施予定であったが、東京オリンピック・パラリンピック大会が延期となったため、2021年の実施へ向けて施設面を含め受け入れ体制の整備、準備を引き続き行った。
- ・ 事前キャンプ受け入れ支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援日程
事前キャンプ受け入れ	エリトリア国、ブータン王国、ミャンマー連邦共和国	当該国のオリンピック候補選手など	準備を継続
備考	<p>・【受入れ場所】 星槎箱根キャンパス、星槎レイクアリーナ箱根、星槎道都大学など</p> <p>・【協働者（機関）】 各国オリンピック委員会および各競技連盟、学校法人国際学園、学校法人北海道星槎学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、公益財団法人日本オリンピック委員会（JOC）、公益財団法人全日本空手道連盟、公益財団法人日本水泳連盟、公益財団法人全日本柔道連盟、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町</p>		

(5) パラリンピック参加に向けての支援

- ・ オリンピックに比して、パラリンピックへの参加に向けた基盤がまだまだ整備されていない側面がある。広く共生社会の実現を目指す上でもパラリンピックへの道を切り拓くための支援が必要である。
- ・ 東京大会へ向けてアスリートの育成及び環境整備、出場資格獲得への支援を継続して行った。
- ・ 支援の一環として、II-(5)に記載したパラアスリートの国際大会参加支援および競技用具の寄贈を実施した。
- ・ パラリンピック参加に向けての支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
パラリンピック支援	エリトリア国 ブータン王国 ミャンマー連邦共和国	身体に不自由を抱えている選手 知的障害を抱えている選手	継続的に実施
備考	<p>【受入れ場所】 星槎箱根キャンパス、星槎レイクアリーナ箱根、星槎道都大学など</p> <p>・【協働者（機関）】 各国パラリンピック委員会および各競技連盟、学校法人国際学園、学校法人北海道星槎学園、公益財団法人日本陸上競技連盟、日本パラリンピック委員会（JPC）、公益財団法人全日本空手道連盟、公益財団法人日本水泳連盟、公益財団法人全日本柔道連盟、神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町</p>		

(6) 冬季オリンピック・パラリンピック参加に向けての支援

- ・ ブータン王国の未来を考え、広く共生社会の実現を目指すためにも、冬季オリンピック・パラリンピックへの道を切り拓くための支援が必要である。そのため、ブータン王国の2022年冬季北京オリンピック・パラリンピック参加に向けての基盤整備を行う。
- ・ 2022年冬季北京オリンピック・パラリンピック大会初参加・初出場に向けて冬季アスリート選出と育成を行う。そして環境整備、出場資格獲得への支援を実施する。
- ・ 2020年度は新型コロナウイルスの影響により現地渡航が叶わず、具体的な支援には至らなかったが、今後も継続的に支援内容を協議していく。
- ・ 冬季五輪参加に向けての支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
冬季オリンピック・パラリンピック支援	ブータン王国	当該国のオリンピック候補となり得る可能性のある選手など	継続的に聞き取り並びに調査を実施した。
備考	<p>【受入れ場所】 星槎国際札幌・帯広他北海道地区、星槎箱根キャンパス、星槎レイクアリーナ箱根、星槎道都大学など</p> <p>【協働者（機関）】 ブータンオリンピック委員会および各競技連盟、学校法人国際学園、学校法人北海道星槎学園、公益財団法人全日本スキー連盟、公益財団法人日本スケート連盟、公益社団法人日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟、特定非営利法人日本障害者スキー連盟、一般社団法人日本車いすカーリング協会、日本オリンピック委員会、日本パラリンピック委員会、日本パラリンピック委員会など</p>		

(7) 神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町、星槎グループで協働のSKYプロジェクトへの参加支援

- ・ 2017年度から実施しているSKYプロジェクトを2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会が終了するまでの間、継続して行う。実施時期は、SKYプロジェクト担当者会議で県および市町の要望に応えるよう継続して実施していく。
交流内容は、留学生と一緒に駆けっこなど運動や留学生の母国についての紹介、保護者・地域の方々と交えた料理教室など。
- ・ 2018年度、2019年度ともに留学生と地域の小中学生との交流が大変好評であったが、2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大により学校での交流事業はほぼ不可能となったが、感染拡大1月に箱根町において幼稚園児との交流イベントを実施することができた。

・ SKY プロジェクト参加支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	実施日程
SKY プロジェクトへの支援	エリトリア国 ブータン王国 ミャンマー連邦共和国	神奈川県内の主に大磯町を中心とした、保育園、小学校、中学校の園児・児童・生徒	1 / 3 0 箱根町仙石原 幼児学園で実施
備 考	【協働者（機関）】 神奈川県、小田原市、箱根町、大磯町、学校法人国際学園 【2018年度実績】 大磯町立国府保育園、同大磯小学校、同国府小学校で実施 【2019年度実績】 大磯町立大磯小学校、同国府小学校、同国府中学校、小田原市立富士見小学校等で実施		

(8) SEISA AFRICA ASIA BRIDGE (SAAB)の開催

- ・ 世界こども財団、学校法人国際学園共催の上記イベントを今年度も継続して開催した。

目的は、アフリカ、アジアの国々、太平洋の島国を知り、お互いを認め合い、そして、つながる“架け橋”となることである。単にイベントではなく、日常の教育活動に世界中の人々が笑顔で暮らせる共生社会の実現に向け、一人ひとりが出来ることから考え、お互いの意見を発表し、さらに発展することを行っている。

・ 2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、初のオンライン開催とし、星槎高等学校と JICA 横浜の2会場より全プログラムを6チャンネルで配信、1日のみの開催であったが、30カ国から約2万人のアクセスがあった。JICA 横浜に全面的に協力をいただいたほか、UNDP（国連開発計画）からもニューヨークから参加いただくなど、オンラインならではの取り組みを実施した。

- ・ SAAB 開催支援の概要

支援内容	支援対象地区	参加者	備 考
SAAB 2020 への支援	国内およびアフリカ、アジアを中心とした国々	来場者および視聴者約2万人	11月14日開催
備 考	【協働者（機関）】 学校法人国際学園、一般社団法人星槎グループ、JICA 横浜、UNDP（国連開発計画）他 【後援（機関）】 アフリカ各国の駐日大使館、外務省、神奈川県、横浜市、小田原市、箱根町、大磯町、神奈川県教育委員会、横浜市教育委員会、JICA 他 【実績】 2015年より毎年開催		

(9) ブータンロイヤル・ティンパー・カレッジの学生の招聘

- ・ 星槎大学と姉妹校であるロイヤル・ティンパー・カレッジとの協定に基づき、「STAR プログラム」として短期間の学生の受け入れを実施した。日本文化や日本の最新技術に触れ教養を高めると同時に、ブータン文化を発信することで双方の文化理解、友好関係の構築を狙いとする。

- ・ ロイヤル・ティンパー・カレッジ学生招聘の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
ロイヤル・ティンパー・カレッジの学生の招聘	ブータン王国	ロイヤル・ティンパー・カレッジの学生10名 職員2名	1/26～2/5
備考	【協働者（機関）】 学校法人国際学園 星槎大学		

IV 子どもたちや青少年の自立支援事業

1 方針

開発途上国の子どもたち、その中でも特に弱い立場にいる孤児の自立を支援するため、他の支援者とともに支援活動を実施する。

2 支援事業の概要

- (1) バングラデシュ、アグラサーラ孤児院に支援事業を実施し、孤児たちが将来自立できるようにする。

- ・ 株式会社矢部プロカッティングの海外生産拠点設立のニーズと、アグラサーラ孤児院のニーズを結びつけ、縫製工場建設を進める。ついては、職業訓練をすすめ、当該工場での就業機会提供を積極的に進め、孤児院及び孤児院自立に向けた支援を継続的に行っている。
- ・ アグラサーラ孤児院支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
孤児縫製職業訓練	アグラサーラ孤児院	孤児院の子どもたち	—
備考	【協働者（機関）】 アグラサーラ孤児院、株式会社矢部プロカッティング、学校法人国際学園		

- (2) ミャンマー国内（ネピドー近郊）孤児院に対し支援活動を実施し、将来孤児院が自律的に運営できるようにする。

- ・ 金銭、食料等を提供することは、孤児たちが生死の窮状にある時には大切なことであり、必要不可欠なことであるが、長期的には孤児院経営を安定、自立させることが重要である。
- ・ 2020年度は具体的な支援には至らなかったが、現地関係者との協議を継続しており、引き続き先方のニーズを確認し、2021年度も継続事業とする。

・ ミャンマー国内孤児院支援の概要

支援内容	支援対象地区	支援対象者	備考
孤児院の分析 および運営・ 経営候補者の 研修	ミャンマー国内孤児院	ミャンマー孤児院の子どもたち	—
備考	【協働者（機関）】 サマ・タウン孤児院、学校法人国際学園		

V 前号に掲げるもののほか、この財団の目的を達成するために必要な事業

1 方針

前号 I～IVの目的を達成するために、以下の事業を実施する。

2 事業の概要

(1) FGC ニュースの刊行

- ・ 世界子ども財団の活動を広く紹介し、より多くの理解と協力を得るための広報活動の一環として、「FGC ニュース」を刊行、配布する。刊行した FGC ニュースは新規会員や寄付の募集ツールとしても活用する。
- ・ 2020年度より、よりタイムリーに情報を届けるため、これまで年3回だった刊行を倍の6回とし、定期的に刊行を継続した。
- ・ FGC ニュース刊行の概要

事業内容	配布対象者と方法	備考
FGC ニュース の刊行	世界子ども財団の会員および協力者へ郵送 星槎グループの全国の事業部を通じて幅広く配布	刊行：年6回（隔月）

(2) ソーシャルメディアによる情報発信

- ・ 2020年度より既存 Facebook をより活性化させて、世界子ども財団の活動に於ける情報発信を一度に、タイムリーに、そしてより多くの人に広める。
- ・ Facebook に連動し Instagram アカウントを開設。写真や動画など、視覚的な情報発信に特化し、幅広い世代に世界子ども財団の情報が届くようにした。
- ・ ソーシャルメディアの概要

事業内容	アドレス等	備考
Facebook	http://goo.gl/eDCa6W	
Instagram	https://www.instagram.com/fgc_seisa/	

(3) 世界こども財団活動報告会の実施

- 個人、法人会員をはじめ世界こども財団の活動に賛同・協力いただいている方に対し、「活動報告会」を実施し、協力者への説明責任を果たすとともに、日頃の感謝を伝える場を設けた。活動報告は前事業年度の活動を総括し、新年度の活動方針を説明した。
- 世界こども財団活動報告会の概要

事業内容	対象者	備考
活動報告会の実施	世界こども財団の会員および協力者 約60名	2020年1月24日 大磯プリンスホテルにて開催

(4) その他各国への支援

- 新型コロナウイルスの感染拡大により、アフリカの南アフリカ共和国、およびマラウィ共和国において地域のために草の根の活動を行う団体へ寄付を行い、その活動を支援した。

支援内容	支援対象地区	支援対象者	支援内容
新型コロナウイルスの感染拡大に関連する各国の草の根活動支援	南アフリカ共和国	支援活動を実施する協会 (NG Kerk George Suid)、および地域住民	2020年5月：George-Suid 協会の実施する生活困窮者への食糧提供事業を支援するため、寄付を実施。調理器具等の購入に活用。
	マラウィ共和国	Embangweni の病院のスタッフおよび患者	2020年12月：Embangweni Mission Hospital に寄付を実施、コロナ対策で過酷な状況下で働くスタッフの環境整備に活用。

(5) 日本国内で発生した災害等への支援

- 令和元年から令和2年にかけて発生した台風19号（福島県）、令和2年7月豪雨（熊本県）、首里城焼失（沖縄県）のそれぞれに対し、全国で募金活動を展開。台風19号への義捐金は郡山市に贈呈し、他2件は継続中。

支援内容	支援対象地区	支援内容	備考
台風19号復興支援	福島県	2019年10月に発生した台風19号で甚大な被害を受けた地域の復興へ向け、緊急募金活動を展開	2020年3月17日、集まった約31万円を郡山市長に義捐金として贈呈
令和2年7月豪雨復興支援	熊本県	令和2年7月豪雨において甚大な被害を受けた地域の復興へ向け、緊急募金活動を展開	継続中
首里城焼失再建支援	沖縄県	2019年10月の首里城焼失について、今後の再建へ向けて緊急募金活動を展開	継続中